



AKASE株式会社



AKASE、ファイルサーバーを AWS 上に構築し、運用負荷の軽減、セキュリティ強化、データ消失リスクの解消などを実現

導入効果

- 約 1 か月：ファイルサーバーの構築期間
- 2 倍：オンプレミスでサーバーとバックアップ環境を構築した場合のコストメリット
- サーバー容量の容易な拡張
- アクセス権限の厳格な管理
- データ消失リスクの解消

ご利用中の主なサービス

- Amazon EC2
- Amazon EBS
- Amazon S3

企業名：AKASE 株式会社

業種：製造・卸・小売業

国名：日本

設立：1972 年 7 月 (創業 1961 年)

資本金：8,000 万円

ウェブサイト：

<https://www.akase.co.jp/>

概要：『マスターウォール』のブランドで、オリジナル家具の製造、卸売、小売を手がける AKASE 株式会社。オンプレミスのファイルサーバーを長年利用してきた同社は、容量の不足解消とハードウェア保守の解消、セキュリティ強化に向けて、アマゾン ウェブ サービス (AWS) を活用したファイルサーバーに移行しました。AWS への移行により、柔軟な拡張と安定運用を実現。バックアップ環境を新たに構築し、データ消失リスクを解消しました。

ビジネスの課題：ファイルサーバーの容量が逼迫し、拡張が必須な状況に

1961 年に岡山県笠岡市で、婚礼家具メーカーとして創業した AKASE。2000 年代に洋風家具の製造・販売にシフトし、オリジナルブランド『マスターウォール』をスタートしました。現在は、銀座、青山、横浜など全国に 10 の店舗を展開しています。2020 年には住宅事業と生活支援事業を新たに立ち上げ、創業 60 周年を迎えた 2021 年に社名を『アカセ木工』から『AKASE』に変更し、住宅施設総合サービス企業への変革を図っています。

「事業の多角化の背景には、私たちの得意領域を活かして、家具から住まいをつくる、生活支援の中から家具を提案するといった、ライフスタイル全体をカバーする狙いがあります。主力の家具事業は、小売と卸売の 2 つを展開しているのが特徴で、お客様からのフィードバックを家具づくりに活かしています。オリジナルブランドの『マスターウォール』では、世界三大銘木のウォールナットの中から最高ランクの材料を使用し、100 年後の人たちにも愛着を持ってもらえる家具づくりを目指しています」と語るのは、取締役の北村浩三氏です。

岡山と東京に本社を置き、全国に店舗を持つ同社において、日々の業務で生まれる報告書、見積書、顧客台帳、設計図面などのデジタルファイルは、岡山本社に設置した物理サーバー上で稼働するファイルサーバーで管理していました。しかし、ビジネスの成

長と事業の多角化が進むにつれてファイルサーバーの容量が逼迫し、拡張が求められていました。サーバーハードウェアの老朽化も進んでいました。経営管理の前原浩史氏は次のように語ります。

「検討した 2020 年当時、当社には IT 専任の担当がおらず、サーバーの安定運用や運用負荷の軽減、アクセス権限の管理が大きな課題でした。そこでこれらの課題解決に向けてファイルサーバーをリプレースすることにしました」

ソリューション：約 1 か月で AWS 上にシンプルなファイルサーバーを構築

リプレースに向けて、オンプレミスによる再構築とクラウドの 2 択で検討した同社は、AWS への移行を決定しました。

「予測できない容量の増加にも柔軟に対応でき、無駄なくリソースが利用できる拡張性の高さが決め手です。高額な初期費用が必要なオンプレミスと比べて、クラウドなら初期費用がかからないことも安心材料でした。数あるクラウドサービスの中でも、多くのユーザーに利用されている AWS であれば不安なく利用できると判断して採用を決めました」(北村氏)

新たなファイルサーバーは、導入パートナーの支援を受けて、2020 年 11 月から 2021 年 1 月までの約 1 か月間で構築しました。Amazon EC2 と Amazon Elastic Block Store (Amazon EBS) によるシンプルな構成とし、バックアップ先のストレ





北村 浩三 氏
AKASE株式会社
取締役



森脇 正文 氏
AKASE株式会社
情報システム部 部長



前原 浩史 氏
AKASE株式会社
経営管理

企業概要

AKASE株式会社

1961年、岡山県笠岡市で「赤瀬木工所」として創業。2021年、AKASE株式会社へ社名変更。現在、「No Place Like Home」をミッションに、家具製造・卸、システム家具製造、特注家具製造、家具・家庭用電気製品・家庭用雑貨・服飾・装飾雑貨の販売、緑化用植物・観賞用植物の販売・飲食物の販売、店舗及び事務所等の企画・運営並びにコンサルタント、ゴルフ練習場の経営と多角的にビジネスを展開する。

「クラウドであれば初期費用がかからないことも安心材料でした。多くのユーザーに利用されている AWS であれば不安なく利用できると判断して採用を決めました」

北村 浩三 氏
AKASE株式会社 取締役

ジには Amazon S3 を採用しています。ネットワークは、コストを抑えて導入するために既存のインターネット回線を活用し、セキュアに AWS 環境に接続する構成としました。

「全国の販売拠点からのアクセスする際の遅延を防止するため、岡山本社と銀座本店の2か所にルーターを設置し、東日本エリアの4店舗は銀座本店から、西日本エリアの4店舗は岡山本社から AWS に接続することにしました」(前原氏)

稼働後の運用、監視、容量拡張、拠点追加などの日々の保守運用作業はすべて導入パートナーに委託し、AKASE 社内での運用負荷の軽減を図っています。

導入効果: バックアップ環境の構築によりデータ消失リスクを解消

AWS 上にファイルサーバーを構築してから約2年が経過した現在、大きな障害もなく安定稼働を続けています。ユーザーはこれまでどおり共有フォルダーや個人フォルダーにアクセスしてファイルが利用できるよう、操作性の違いを意識することはありません。アクセス権限も担当者や役職に応じて細かく設定することが可能になり、セキュリティリスクも解消されました。ネットワーク遅延の影響によるパフォーマンスの低下もなく、快適な利用が続いているといえます。サーバーの拡張性も確保され、容量が不足した際には即座に追加できるようになりました。

「ファイルサーバーの容量は初期構築の段階で 1.8TB を確保し、約 0.8TB のデータを旧サーバーから移行しました。データ量は約2年で 1.5TB まで増えているので、そろそろ容量の追加を検討しているところです」(前原氏)

同社が AWS 上へのファイルサーバー構築で一番のメリットとして感じているのが、データの消失リスクがなくなったことと、運用負荷を軽減しビジネスに集中できるようになったことです。

「従来環境では、ファイルサーバーのバック

アップは取得しておらず、障害や災害によってデータが消失してしまう危険性と隣り合わせでした。今回、クラウドにファイルサーバーを移行し、さらにバックアップ環境を整えたことで、リスクを考える必要がなくなりました。オンプレミス環境にファイルサーバーとバックアップの2つを構築することを考えると、結果的に2倍のコスト効果が得られたこととなります。拠点追加時にも新たなサーバーを準備することなく AWS 環境を利用できるので、ビジネス面での不安もなくなりました」(北村氏)

AWS 上へのファイルサーバーの移行を終えた2021年4月には、専門のIT部門として情報システム部を新設しました。現在、本格的なIT活用に向けた施策や、DX 施策を検討し、着々と導入が進んでいます。情報システム部 部長の森脇正文氏は次のように語ります。

「クラウドファーストを方針とし、新規で導入するシステムはクラウド上への構築を原則としています。すでに PaaS 型の業務改善プラットフォームや、名刺管理、タレントマネジメントなど SaaS 型のビジネスアプリケーションを導入済みです。今後は、オンプレミス環境で稼働している基幹システム、顧客管理システム、CAD システムなどもサーバーやソフトウェアの保守切れのタイミングでクラウドに移行していきます」

DX 戦略としては、YouTube を使った情報発信、VR/AR を使ったバーチャルショールーム、AI や RPA の活用など、デジタルツールを積極的に活用しながらビジネスを拡大していく計画です。

「今回のプロジェクトを通してクラウドを知り、改めて将来性に期待が持てるようになりました。今後、家具事業では、低価格帯から高価格帯のモデルまでラインナップを拡充して規模の拡大を目指していきます。私たちの商品やサービスが提案しやすい環境をつくり、より多くの方に知ってもらうためにはデータやシステムの活用が欠かせません。AWS には引き続き技術面からバックアップをいただければと思います」(北村氏)



アマゾン ウェブ サービス ジャパン合同会社

〒141-0021 東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア <https://aws.amazon.com/jp/>
Copyright © 2022, Amazon Web Services, Inc. or its affiliates. All rights reserved.